

アジアの各地で闘う民衆

それぞれの課題と法律家の役割

◆特集にあたって

いま、アジアの各地で、多様な「民衆の闘い」が展開されている。闘いの背景も要因もその態様も一様ではないが、それぞれの人権課題・民主主義課題が、どの国にあつても凶暴な権力との深刻な対立によつて、熾烈な民衆の闘いを余儀なくされている。そして、一国での闘いはいずれも困難な局面にあつて、国際的な連帯と支援を求めている。

また、それぞれの闘いに法律家が関わり、一定の役割を果たしながらも、法律家自身も苦境の現状にある。現実には苛酷であり、人権や民主主義を獲得するための歴史の苦悩は、今なお進行中であることを実感せざるを得ない。

本特集は、この各国の実状を紹介するとともに、国際法の課題や、国境を越えた法律家の連帯や支援の可能性についての問題提起とし、われわれが何をなしうるかを考える契機ともしていただきたい。

今号の特集は、各論からの順序となる。まず、読者に関心の深い香港の民主主義の苦境と、その後にある中国の立憲主義についての二論稿。併せて読むことで、顕在化した現実の厳しさと、さらにその奥にある厳しさの源泉を理解することになろう。

◆死にゆく「二国二制度」——香港で何が起きているか……鈴木賢

◆「憲法あつて憲政なし」の国で、あるいは中国の憲法と人権について

……石塚迅

以下は、さらに苛酷で深刻な各国の民衆の闘いの現状の報告である。ミャンマー、タイ、フィリピン、アフガニスタン、それぞれの歴史的な背景事情の中での闘いの厳しさと、解決の難しさにたじろがざるを得

ない。が、その困難な状況下で闘っている人々の崇高さに打たれる。

◆ミャンマー軍事政権との闘いの現状と日本における連帯・支援の課題……渡邊彰悟

◆岐路に立つ「タイ式民主主義」……今泉慎也

◆フィリピンの超法規的殺人 EJK (Extrajudicial Killing)……井上啓

◆アフガン女性の闘う「勇気」を生み出したもの——長期的視野で築いてきた闘争の歴史……清末愛砂

そして、以下の論稿が、各国の具体的な現状を考察するための総論となる。稲論文はアジアにおける人権課題を網羅的に俯瞰し、申論稿は国際法の枠組みを提供するもの、新倉論文は闘う民衆の国際連帯の可能性について論じ、笹本論文は、朝鮮半島の平和を素材に法律家の国際連帯の実践を報告する。それぞれ、有益なものとなっている。

◆アジア各地における「民衆の闘い」の現状と課題……稲正樹

◆人権と民主主義を求める民衆の危機と国際社会——大国のエゴを超えて……申恵丰

◆アジア各地での民衆の闘いと国際連帯……新倉修

◆朝鮮半島の平和プロセス実現のための、法律家の国際連帯……笹本潤
ミャンマーの軍事政権との闘いについての、渡邊彰悟弁護士との報告の最後に、こうある。「ミャンマーの詩人 K T 氏は「彼ら（権力）は頭を撃つが、革命は心にあることをわかっていない」と詠んだ（彼は拘束され尋問され殺された）。この詩に込められた思いに連帯し、私たちは日本がなすべきことを積み重ねたい。」

この一文を重く受けとめねばならないと思う。